

# 第1学年A組 社会科学学習指導案

授業者 石高吉記

## 1 単元名 身近な地域の歴史

「歴史を伝えるとはどのようなことなのだろう  
～次世代に伝えたい私たちの地域の歴史～」

## 2 単元について

### (1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)2内容 歴史的分野A 歴史との対話 (2) 身近な地域の歴史を受けて構成したものである。

この中項目では、比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現する学習を行う。また、小学校時に学習する「(4) 県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動」との連携も考えられ、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めることのできる教材であると考えられる。

### (2) 指導観

身近な地域とは、生徒の居住地域や学校の所在地域を中心に、生徒自身による調べる活動が可能な、生徒にとって身近に感じることができる範囲であるが、それぞれの地域の歴史的な特性に応じて、より広い範囲を含む場合もある。ここでは、従前の内容の(1)の「イ 身近な地域の歴史を調べる活動」の趣旨を受け継ぎ、それが一層着実に実施されることを重視している。身近な地域は、歴史上の出来事を具体的な事物や情報を通して理解することができるとともに、それを自らが生活する日常の空間的な広がりの中で実感的に捉えることができる学習の場である。そこで、「比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながり」などの視点に着目して、歴史を追究する方法そのものを学ぶことができる有効な機会となる。

埼玉大学では、共生社会の実現を目指しており、その中でも第四期中期計画として、教育学部・教育学研究科と連携・協働して、教育の実践並びに研究に取り組み、「共生・ダイバーシティ社会」の担い手づくりとなる教育モデルを開発・実践を進めるところである。そういった社会や地域の要請もあることから、本単元において、単元を貫く学習問題として、「歴史を伝えるとはどのようなことなのだろう。」と設定し、歴史を伝える意義そのものについて問うていく。3年間の歴史的分野の学びの導入として、先人に学ぶことの意義に触れ、過去の経験から、これからのよりよい社会をどのように創っていったらよいかを考える初発としていきたい。

### (3) 研究の手立てについて

授業の設計についてと思考の変容が読み取れる「社会科学びの地図」の活用については教科論を参考にされたい。

【手立て1】 困難に向き合い、試行錯誤するなどの挑戦する学びの場面の設計

- ・本校社会科では生徒の挑戦心を「学習活動において、現代社会に見られる課題を解決しよう」とすることから、よりよい社会の実現を目指す姿」と捉えた。それを引き出すために、単元を通して生徒自ら問い続け課題解決に取り組めるような学習指導の工夫を行った。

### 【手立て2】生徒自らの「挑戦心」の意識化

- ・本校社会科では授業の設計と生徒の思考の変容を自身が認識するためなどを目的に「社会科学の地図」という振り返りのワークシートを活用している。「学びの地図」を形成的評価につなげることで、生徒が学習を自己調整したり、学習課題を追究する際、各々の学習目標の設定の手助けとしている。詳細は教科論を参考にされたい。

### 【手立て3】教師や仲間との協働的な学びの充実の手立て

- ・協働的な学びの充実のために、多量な情報を活用しながら異なる視点で考え、協働的に学ぶ場面を意図的に学習展開に組み入れた。それらは、単元の指導計画や本時の展開において示す。

## 3 単元の指導計画

### (1) 単元の目標

- ・自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けるようにする。
- ・比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。
- ・歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けるようにする。

### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。	・比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	・歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。

### (3) 単元の指導計画（7時間扱い） ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等 ★教師や仲間との協働的な学びの充実の手立て	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
単元の導入 1時間	<b>【ねらい】</b> ・単元を貫く学習課題「歴史を伝えるとはどのようなことなのだろう～次世代に伝えたい私たちの地域の歴史～」について、疑問を出し合うなど対話的な活動を通して学習課題を設定するとともに、解決の見通しをもつ。 ・小学校のときに学習した県内の偉人の働きについて想起する。意見交流する。 ・身近な地域の歴史について、人物、建物、遺跡・遺物、生活・文化、風習・言い伝えなどの項目から、ウェビングマップを作成する。 ・作成したウェビングマップを班で共有し、意見交換する。 ・単元を貫く学習課題について、初発の考えをもち、これまでの学びから解決に役立ちそうな情報を挙げ、解決の見通しをもつ。 ★今までの経験から身近な地域の歴史で想起するもののがいを取り上げ話し合うことで、単元の学習を通じた学習の動機づけを行う。				● 単元を貫く学習課題について、初発の考えをもち、これまでの学びから解決に役立ちそうな情報を挙げ、解決の見通しを立てている。（ワークシート）
	<b>【単元を貫く学習問題】</b> 「歴史を伝えるとはどのようなことなのだろう～次世代に伝えたい私たちの地域の歴史～」				

<p>第一次 1時間</p>	<p>【第一次のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較や関連，時代的な背景や地域的な環境，歴史と私たちとのつながりなどに着目して，地域に残る文化財や諸資料を活用して，身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し，表現する。</li> <li>・単元を貫く学習問題について，次世代に伝えたい私たちの地域の歴史がどのようなものか見通しをもつ。</li> </ul>	<p>【第一次の課題】「次世代に伝えたい私たちの地域の歴史はどのようなものだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「次世代に伝えたい私たちの地域の歴史はどのようなものだろう」という問いについて，どのような歴史を伝えていくべきなのか，意見を出す。</li> <li>・出された意見をグルーピングし，地域のどのような歴史を伝えていくべきなのか整理する。</li> <li>★比較や関連，時代的な背景や地域的な環境，歴史と私たちとのつながりなどに着目して，地域のどのような歴史を伝えていくのか，話し合う。</li> <li>・次世代に伝えたい地域の歴史を調査するための調査テーマを決定し，調査計画を作成する。</li> <li>★どのような調査方法が適切か，思考ツールを通して考えたことをもとに話し合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●比較や関連，時代的な背景や地域的な環境，歴史と私たちとのつながりなどに着目して，地域に残る文化財や諸資料を活用して，身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し，表現している。(ワークシート)</li> <li>●単元を貫く学習問題について，次世代に伝えたい私たちの地域の歴史がどのようなものか見通しをもつ(ワークシート)</li> </ul>
<p>第二次 2時間</p>	<p>【第二次のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって，具体的な事柄との関わりの中で，地域の歴史について調べたり，収集した情報を年表などにまとめるなどの技能を身に付ける。</li> <li>・単元を貫く学習問題について，次世代に伝えたい私たちの地域の歴史をどのように伝えることが効果的なのか考えを表す。</li> </ul>	<p>【第二次の課題】「次世代に伝えたい私たちの地域の歴史をどのように伝えればよいのだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい地域の歴史について，どのように収集した情報をまとめ伝えるかグループで検討する。</li> <li>★次世代に伝えたいという願いが伝わるような表現にするためには，どのような手段でまとめればよいかを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって，具体的な事柄との関わりの中で，地域の歴史について調べたり，収集した情報を年表などにまとめるなどの技能を身に付ける。(ワークシート/成果物)</li> </ul>
<p>第三次 2時間 (本時)</p>	<p>【第三次のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を貫く学習問題について，次世代に伝えたい私たちの地域の歴史をさらに効果的に伝える方法を考える。</li> </ul>	<p>【第三次の課題】「単元の学習で学んだことから，私たちの地域の歴史を次世代にさらによりよく伝えるためには，どのようにすればよいのだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代に伝えたい私たちの地域の歴史をまとめた成果物を小学生に発表する。</li> <li>★小学生のコメントから，さらによりよく伝えるためにはどうしたらよいかを話し合う。</li> <li>・さらによりよく伝えるために，まとめを磨き上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって，具体的な事柄との関わりの中で，地域の歴史について，収集した情報を年表などにまとめるなどの技能を身に付ける。(ワークシート/成果物)</li> </ul>
<p>まとめ 1時間</p>	<p>【まとめのねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を貫く学習課題「歴史を伝えるとはどのようなことなのだろう～次世代に伝えたい私たちの地域の歴史～」について，これまでの単元の学習を基に，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする。</li> </ul>	<p>【まとめの課題】「歴史を伝えるとはどのようなことなのだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を振り返り，比較や関連，時代的な背景や地域的な環境，歴史と私たちとのつながりなどに着目して，身近な地域の歴史を伝えることを通して考えた歴史を伝えることについて，学びの地図に記入する。</li> <li>★学びの地図に記入したことを相互に発表しあい，お互いが単元を通して，多面的・多角的に考えたことを共有し，これからの学びにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比較や関連，時代的な背景や地域的な環境，歴史と私たちとのつながりなどに着目して，地域に残る文化財や諸資料を活用して，身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し，表現している。(ワークシート)</li> <li>○歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度を身に付けている。(ワークシート)</li> </ul>

#### 4 本時の学習（5/7時間目）

##### (1) ねらい

- ・自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。
- ・小学生のコメントから、身近な地域の歴史を伝える意義について、主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。

##### (2) 展開

過程	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ★教師や仲間との協働的な学びの充実の手立て	観点 具体の評価規準
導入 (2)	1 前時までで追究した内容を復習し、本時の課題を確認する。	・前時までの内容を振り返り、単元を貫く学習問題の解決の見通しをもたせ、導入時での学びの必要感をもう一度思い起こさせる。	
課題提示	<b>課題 「単元の学習で学んだことから、私たちの地域の歴史を次世代にさらによりよく伝えるためには、どのようにすればよいのだろう」</b>		
課題追究 (8)	2 小学生に伝えた身近な地域の歴史について、小学生からのコメントを共有する。コメントをまずは個人でしっかり読む。	・小学生に form でもらったコメントを各班にデータで共有する。 ・小学生がこれからも伝えていきたい身近な地域の歴史という観点でコメントしたことを補足する。 ★身近な地域の歴史を伝える相手意識をもつことで、協働的な学びに必要感をもたせる。	
(7)	3 小学生からのコメントを見て感じた身近な地域の歴史について、さらにどのように伝えれば、歴史を伝える意義を見いだせるのか考える。	・次世代に伝えたい身近な地域の歴史の想いが伝わっているか、問いや調査した手法や内容を精査させる。 ・収集した情報を年表などにわかりやすくまとめているかなど、まとめの技能や表現の工夫にも言及する。	
(20)	4 個人で整理した考えを、グループで共有し、まとめる。 思考ツールを用い、表に整理する。	★班内に整理した考えを共有する際、様々な視点からさらによりよいまとめになるように、自分の考えと他者の考えを比較させる。	
(8)	5 グループから全体への発表を行い、学びを深める。 他グループの発表から、自分のグループの改善に生かす。	・伝えたい身近な地域の歴史をさらによりよく伝える方策を考える活動を通して、歴史を伝えるとはどのようなことか、その意義について、初発の考えからの変容や深まりに気付かせる。	<b>知</b> 自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。
(5)	6 「学びの地図」に本時の学習の振り返りを書く。	・本時の学習についてわかったことを、「学びの地図」に記入させる。	<b>主</b> 小学生のコメントから、身近な地域の歴史を伝える意義について、主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。 (ワークシート)

【結論の例】次世代に伝えたい身近な地域の歴史は、私たちの現代の生活をよりよくするものと考え、発表資料を作成した。小学生は身近な地域の歴史について、出来事や人物自体は知っていた。さらに、その身近な地域の歴史がなぜ現在まで伝えられているかというところを小学生に伝えたほうがよいと感じた。そのためには、年表や地図などを用いて、現在とのつながりを明らかにして、歴史を伝える意義を考えていきたい。

